

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	学校経営と学校図書館	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉田 肇吾	3年	yoshida@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 学校教育における学校図書館の位置づけ及び機能について概観する。そして、学習活動の中での情報や各種メディアの役割を踏まえた上で、学校及び学校図書館の運営に対する考え方や方法について、教育活動の視点からとらえる。	メッセージ 2021(令和3)年度は「遠隔授業」とします。 授業方法は①毎週、関係資料・レポート課題の提示→②レポート提出→③平常点(毎週のレポート評価)→④最終試験の総合評価とする。司書教諭・学校司書として学校図書館で働く人たちに必要な基礎知識を提供する。学校教育と学校図書館の関係、学校図書館の運営、司書教諭・学校司書の役割などについて広く取り上げていく。
	到達目標 学校図書館の教育現場への関わり方を大きく捉えることが出来る。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	
	1	(特)オリエンテーション：学校教育と学校図書館について	
	2	(特)学校教育と学校図書館①：意義と理念	
		時間外学習の内容	
	3	(特)学校教育と学校図書館②：現状と課題	第1週：シラバスを読み授業に備える
	4	(特)学校教育と学校図書館③：新たな役割	第2～15週：関連図書及び雑誌による内容把握と、新しい動向や課題について捉え、講義内容もまとめておく。
	5	(特)学校図書館の制度	
	6	(特)学校図書館の職員	
	7	(特)学校図書館の経営①組織・運営	
	8	(特)学校図書館の経営②施設・設備	
	9	(特)学校図書館のメディア①：種類と内容	
	10	(特)学校図書館のメディア②：コレクションの構築	
	11	(特)学校図書館のメディア③：組織化と提供	
	12	(特)学校図書館の活動①：基礎的活動	
	13	(特)学校図書館の活動②：現状	
	14	(特)学校図書館の評価	
	15	(特)学校図書館の課題と展望	
	16	(特)試験	
	テキスト・参考文献・資料など 「司書教諭・学校司書のための学校図書館必携 理論と実践」改訂版 全国学校図書館協議会監修 2017		
	学びの手立て 学校図書館における、従来の「読書センター」機能だけでなく、現行の学習指導要領で求められる、社会変化に対応した学習の内容と方法に関連した新しい「学習情報センター」としての機能について焦点を当てる。		
	評価 毎週の「課題レポート」(70%)及び「期末レポート」(30%)による総合的評価とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 司書教諭課程の「学校図書館メディアの構成」「学習指導と学校図書館」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	児童サービス論	後期	金4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-田名 洋子	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 児童図書館の歴史、児童を対象とする各種のサービス、児童コーナー（児童室）の運営、児童文庫（家庭文庫）の活動、児童図書の設定と提供などについて総合的に解説する。多くの公共図書館で実施されているヤングアダルトサービスについても解説する。	メッセージ 児童サービスは多くの公共図書館で実施されている対象別サービスの1つです。司書として求められるスキルをこれまでの授業以上に実践的に習得していきます。
	到達目標 ①児童サービスの意義を深く理解し、その方法を具体的に説明できる ②児童サービスに必要な多様な資料の種類と選択理論を理解し、図書館現場のコレクションを適切に評価できる ③チラシ作成、プレゼンテーションなどの演習を通して、児童サービスの基本的なスキルを身につける ④学期内に児童書を100冊読破し、児童サービス担当者に必要となる児童書の知識を身につける	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、児童サービスの定義	シラバスを読み、授業に備える
	2	児童サービスの意義・児童図書館の歴史	児童書100冊読破に挑戦
	3	子どもの発達と読書	児童書100冊読破に挑戦
	4	児童資料の特色と選択	児童書100冊読破に挑戦
	5	児童資料の特色と選択	児童書のお勧め配布ちらし作成
	6	児童資料の特色と選択	児童書のお勧め配布ちらし作成
	7	児童サービスの方法・技術・展開	児童書のお勧め配布ちらし作成
	8	児童サービスの方法・技術・展開	3分間プレゼンシナリオ検討
	9	児童サービスの方法・技術・展開	3分間プレゼンシナリオ検討
	10	お勧めの児童書プレゼンテーション	3分間プレゼンシナリオ検討
	11	お勧めの児童書プレゼンテーション	児童書100冊読破に挑戦
	12	児童コレクションの形成と管理・業務	児童書100冊読破に挑戦
	13	児童図書館員の役割・専門性	児童書100冊読破に挑戦
	14	ヤングアダルトサービス	地域図書館の児童室探訪報告
	15	各機関との連携・協力	地域図書館の児童室探訪報告
	16	授業のまとめ・試験（課題）	授業の振り返り
	テキスト・参考文献・資料など 1回目の授業で説明します。		
	学びの手立て 出席日数が3分の2に満たない者には、原則として単位を与えない。		
	評価 <例> ・レポート 80点 ・平常点 20点（授業時間中の発表態度、到達度を評価する）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 児童サービスについて専門的な間歩公共図書館ができる科目は、司書課程ではこの科目だけですが、児童サービスの授業内容をより深く理解し、図書館現場で実践するためには、児童心理学の知識も求められます。共通科目で該当する科目があればそちらも受講してみましよう。
-------	--

※ポリシーとの関連性 司書資格取得のための必修科目です。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報サービス演習 I	後期	木 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山口 真也	3年	授業開始前、または終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本授業がメインテーマとする「レファレンスサービス」とは、図書館での「参考調査」活動の一部を指します。本に関する質問から、日常的な疑問、ビジネスに関する質問まで、幅広く対応する情報サービスです。本授業では、図書館専門職経験を持つ講師の指導の下、公共図書館を舞台とするロールプレイ方式での演習を行います。</p>	<p>本科目はサービス系科目の総まとめの科目です。グループワークや演習課題が多い科目ですが、1つ1つの課題の目的をきちんと理解して取り組むようにしましょう。</p>
到達目標	<p>1調査に必要なツールの使い方をマスターし、サービスの中で活用することができる。2レファレンスサービスの重要性、現代的意義を、利用者や組織内部に対して説明することができる。3授業で学んだレファレンスサービスに関する知識をもとに、身近な図書館のサービスの現状を適切に評価できる。4グループ活動を通して、チームで仕事をする上での自分自身の役割を発見することができる。5利用者が求める情報を草の根を分けてでも探し出すという職業倫理を身につけ、サービスの中で発揮することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・レファレンスサービスの必要性・方法・発信型レファレンス	グループ内での連絡・調整
	2	図書に関する情報の探索①：レファレンスコレクション・調査方法の解説	レファレンス記録票の作成
	3	図書に関する情報の探索②：調査・回答作成	レファレンス質問への回答準備
	4	図書に関する情報の探索③：回答情報の共有・サービス接遇のあり方・インタビューの方法	個人課題の回答作成
	5	雑誌・新聞に関する情報の探索①：レファレンスコレクション・調査方法の解説	記録票修正・インタビュー計画
	6	雑誌・新聞に関する情報の探索②：インタビュー演習?調査・回答作成	レファレンス質問への回答準備
	7	雑誌・新聞に関する情報の探索③：回答情報の共有、著作権・プライバシーの保護、環境整備	個人課題の回答作成
	8	事物・概念等に関する情報の探索①：レファレンスコレクション・調査方法の解説	演習の準備
	9	事物・概念等に関する情報の探索②：インタビュー+環境整備演習?調査・回答作成	個人課題の回答作成
	10	レファレンス問題作成演習①：問題作成方法の説明・問題作成	レファレンス問題作成
	11	レファレンス問題作成演習②：インタビューシートの作成	レファレンス問題作成
	12	レファレンス問題作成演習③：問題出題・受付	カウンター周辺の整備
	13	レファレンス問題作成演習④：調査	調査・記録票作成
	14	レファレンス問題作成演習⑤：回答・相互評価	カウンター周辺の整備
15	授業のまとめ・到達度の確認	レファレンス質問への回答準備	
16			

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：山口真也・千錫烈・望月道浩編『情報サービス論』ミネルヴァ書房，2020（第2刷）</p>
-------	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は前期・後期に1クラスずつ開講されています。前期は4年生向けのクラス、後期は3年生クラスです。 ・抽選方法・授業受講時の諸注意等は仮登録期間にメール通知するので必ず確認しましょう。 ・1回目の授業でグループ分けを行います。無断で欠席しないようにしましょう。 ・調査期間を確保するため、演習活動にあてる回（3、6、9、11、13）は授業時間を延長して行います。20時30分ごろまで参加できるようにアルバイト等を調整してください。 ・グループによる演習形式の授業のため、特に出席状況を重視して評価します。（※感染症対策のため、グループでの演習活動が難しい場合は授業の内容・スケジュールが変更になる場合もあります）
--------	--

評価	<p>個人レポート・・・30点</p> <p>平常点・・・70点(グループ活動の点数、ロールプレイでのインタビュー、調査、回答等の到達度の総合評価)</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この科目ので司書資格科目を全て取り終える人も多いようです。司書を目指す人は、採用試験(公務員試験)に向けての勉強を本格的に始めましょう。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 司書資格取得のための必修科目です。

[/ 演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報サービス演習 I	前期	木 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山口 真也	3年	授業開始前、または終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本授業がメインテーマとする「レファレンスサービス」とは、図書館での「参考調査」活動の一部を指します。本に関する質問から、日常的な疑問、ビジネスに関する質問まで、幅広く対応する情報サービスです。本授業では、図書館専門職経験を持つ講師の指導の下、公共図書館を舞台とするロールプレイ方式での演習を行います。</p>	<p>本科目はサービス系科目の総まとめの科目です。グループワークや演習課題が多い科目ですが、1つ1つの課題の目的をきちんと理解して取り組むようにしましょう。</p>
到達目標	<p>1調査に必要なツールの使い方をマスターし、サービスの中で活用することができる。2レファレンスサービスの重要性、現代的意義を、利用者や組織内部に対して説明することができる。3授業で学んだレファレンスサービスに関する知識をもとに、身近な図書館のサービスの現状を適切に評価できる。4グループ活動を通して、チームで仕事をする上での自分自身の役割を発見することができる。5利用者が求める情報を草の根を分けてでも探し出すという職業倫理を身につけ、サービスの中で発揮することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・レファレンスサービスの必要性・方法・発信型レファレンス	グループ内での連絡・調整
	2	図書に関する情報の探索①：レファレンスコレクション・調査方法の解説	レファレンス記録票の作成
	3	図書に関する情報の探索②：調査・回答作成	レファレンス質問への回答準備
	4	図書に関する情報の探索③：回答情報の共有・サービス接遇のあり方・インタビューの方法	個人課題の回答作成
	5	雑誌・新聞に関する情報の探索①：レファレンスコレクション・調査方法の解説	記録票修正・インタビュー計画
	6	雑誌・新聞に関する情報の探索②：インタビュー演習➡調査・回答作成	レファレンス質問への回答準備
	7	雑誌・新聞に関する情報の探索③：回答情報の共有、著作権・プライバシーの保護、環境整備	個人課題の回答作成
	8	事物・概念等に関する情報の探索①：レファレンスコレクション・調査方法の解説	演習の準備
	9	事物・概念等に関する情報の探索②：インタビュー+環境整備演習➡調査・回答作成	個人課題の回答作成
	10	レファレンス問題作成演習①：問題作成方法の説明・問題作成	レファレンス問題作成
	11	レファレンス問題作成演習②：インタビューシートの作成	レファレンス問題作成
	12	レファレンス問題作成演習③：問題出題・受付	カウンター周辺の整備
	13	レファレンス問題作成演習④：調査	調査・記録票作成
	14	レファレンス問題作成演習⑤：回答・相互評価	カウンター周辺の整備
15	授業のまとめ・到達度の確認	レファレンス質問への回答準備	
16			

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：山口真也・千錫烈・望月道浩編『情報サービス論』ミネルヴァ書房、2020（第2刷）</p>
-------	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は前期・後期に1クラスずつ開講されています。前期は4年生向けのクラス、後期は3年生クラスです。 ・抽選方法・授業受講時の諸注意等は仮登録期間にメール通知するので必ず確認しましょう。 ・1回目の授業でグループ分けを行います。無断で欠席しないようにしましょう。 ・調査期間を確保するため、演習活動にあてる回（3、6、9、11、13）は授業時間を延長して行います。20時30分ごろまで参加できるようにアルバイト等を調整してください。 ・グループによる演習形式の授業のため、特に出席状況を重視して評価します。（※感染症対策のため、グループでの演習活動が難しい場合は授業の内容・スケジュールが変更になる場合もあります）
--------	--

評価	<p>個人レポート・・・30点</p> <p>平常点・・・70点(グループ活動の点数、ロールプレイでのインタビュー、調査、回答等の到達度の総合評価)</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この科目ので司書資格科目を全て取り終える人も多いようです。司書を目指す人は、採用試験(公務員試験)に向けての勉強を本格的に始めましょう。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報サービス演習Ⅱ	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉田 肇吾	3年	yoshida@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 情報サービスの実務的要素を各種演習を通して理解し、図書館司書として必要な実践力（考え方・知識と技能）を身につける。	メッセージ 2021(令和3)年度は「遠隔授業」とします。 図書館での情報サービスの中核となる「レファレンスサービス」のうち、主に情報機器を使用した問題解決方法を中心として、演習を通して基礎的な知識と技能を身につけていく。
	到達目標 図書館のカウンターでのレファレンスサービスの内容を知り、その問題解決の方法として情報機器を使用した情報検索・選択についての基礎力を身につける。	

学びの準備	到達目標 図書館のカウンターでのレファレンスサービスの内容を知り、その問題解決の方法として情報機器を使用した情報検索・選択についての基礎力を身につける。

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	(特)オリエンテーション、科目内容の説明、登録状況の確認
	2	(特)データベースの基礎知識
	3	(特)情報検索の基礎知識
	4	(特)情報サービスの設計・プロセス・評価
	5	(特)レファレンスサービスの技法と実際
	6	(特)情報発信型サービス：中間課題提示
	7	(特)パッケージ系データベースの検索
	8	(特)図書情報検索1
	9	(特)図書情報検索2
	10	(特)雑誌記事・論文・新聞情報検索1
	11	(特)雑誌記事・論文・新聞情報検索2
	12	(特)インターネット検索1：各テーマ・分野
	13	(特)インターネット検索2：各テーマ・分野
	14	(特)インターネット検索3：各テーマ・分野
	15	(特)インターネット検索4：各テーマ・分野
16	(特)試験	
		時間外学習の内容 第1～6週：実務的基礎知識の習得のため、プリントと関連文献から各要素を整理しておく 第6週：中間レポート提示 第7～15週：図書館での実際のレファレンスサービスに持ち込まれた問題を取り上げ、各分野の検索方法と情報源の選択について、各自ネット検索を通して情報源を概観しておく

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じてプリントを配布する。
-------	------------------------------------

学びの実践	学びの手立て 「図書館サービス」を提供する司書としてカウンターでの問題解決に情報機器を使用する場合、気をつけなければならない点や検索方法・情報の見方などについて、あらためて新たな目線で捉え直す。
-------	--

学びの実践	評価 毎週「課題レポート」（50%）及び中間レポート（20%）、期末試験（30%）による総合評価とする。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 履修順序の前提として「情報サービス論」、同一演習の他科目「情報サービス演習Ⅰ」
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報サービス演習Ⅱ	後期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉田 肇吾	3年	yoshida@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	情報サービスの実践的要素を各分野の演習を通して理解し、図書館司書として必要な実践力（考え方、知識と技能）を身につける。	2021(令和3)年度は「遠隔授業」とします。図書館での情報サービスの中核となる「レファレンスサービス」のうち、主に情報機器を使用した問題解決方法を中心として、演習を通して基礎的な知識と技能を身につけていく。

到達目標	図書館のカウンターでのレファレンスサービスの内容を知り、その問題解決の方法として情報機器類を使用した情報検索・選択についての基礎力を把握する。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特)オリエンテーション、科目内容の説明、登録状況の確認	第1～6週：実務的基礎知識の修得のため、プリントと関連文献から各要素を整理しておく
	2	(特)データベースの基礎知識	
	3	(特)情報検索の基礎知識	
	4	(特)情報サービスの設計、プロセス、評価	
	5	(特)レファレンスサービスの技法と実践	
	6	(特)情報発信型サービス、中間レポート提示	
	7	(特)パッケージ系データベースの検索	第7週：中間レポート提示
	8	(特)図書情報の検索1	第8～15週：図書館での実際のレファレンスサービスに持ち込まれた問題を取り上げ、各分野の検索方法と情報源の選択について、各自ネット検索を通して情報源を概観しておく
	9	(特)図書情報の検索2	
	10	(特)雑誌記事・論文情報の検索1	
	11	(特)雑誌記事・論文情報の検索2	
	12	(特)インターネット検索1：各テーマ・分野	
	13	(特)インターネット検索2：各テーマ・分野	
14	(特)インターネット検索3：各テーマ・分野		
15	(特)インターネット検索4：各テーマ・分野		
16	(特)試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じてプリントを配布する。		
学びの手立て	「図書館サービス」を提供する司書としてカウンターでの問題解決に情報機器を使用する場合、気をつけなければならない点や検索方法・情報の見方などについて、あらためて新たな目線で捉え直す。		
評価	毎週「課題レポート」（50%）、及び中間レポート（20%）、期末試験（30%）による総合評価とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 履修順序の前提として「情報サービス論」、同一演習の他科目「情報サービス演習Ⅰ」
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報サービス論	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉田 肇吾	2年	yoshida@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	公共図書館における図書館サービスの中核となる「情報サービス」の意義、種類と内容及び、社会変化に伴う新しいサービスについての理解を深める。	2021(令和3)年度は「遠隔授業」とします。 授業方法は①毎週、関係資料・レポート課題の提示→②レポート提出→③平常点(毎週のレポート評価)→④最終試験の総合評価とする。図書館サービスの中核「情報サービス」に焦点をあて、そのジャンルに含まれる各種サービスの種類・内容、職員に課せられる職務について、今後の社会変化を捉えながら把握していく。
到達目標	現在でも地域住民にあまり知られていない公共図書館の情報サービスについて、その種類と内容を把握する。また、社会変化の過程において図書館に寄せられる利用者ニーズの変化に対しても、司書はどのように対応していくかを検討する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特)オリエンテーション：科目内容の説明・登録状況の確認	第1週：シラバスを読み授業に備える
	2	(特)情報社会における情報サービス	第2～15週：関連文献による先進事例の調査や、欧米の公共図書館Webサイトを検索して、新たな情報サービスの種類と内容を把握する。
	3	(特)図書館における情報サービスの意義	その際、図書館を取り巻く社会環境や利用者ニーズにも注目すること
	4	(特)図書館における情報サービスの種類1	
	5	(特)図書館における情報サービスの種類2	
	6	(特)レファレンスサービスの理論	
	7	(特)レファレンスサービスの理論と実際	
8	(特)レファレンスサービスの実際		
9	(特)情報検索サービスの理論と方法1		
10	(特)情報検索サービスの理論と方法2		
11	(特)情報源の特質と利用法		
12	(特)情報源の解説と評価1		
13	(特)情報源の解説と評価2		
14	(特)発信方情報サービスの意義と方法		
15	(特)図書館利用教育		
16	(特)試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じてプリント配布する。		
	学びの手立て	図書館先進国と言われる欧米社会の公共図書館で、すでに実施されている先進的な事例も含めて、今後の社会変化の中で日本の公共図書館が取り入れていくべき情報サービスの種類と内容について、関連資料・情報を参考にして予備知識を持つこと。	
	評価	毎週の課題レポート（70%）及び期末レポート（30%）による総合的評価とする。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎知識を修得して、「情報サービス演習Ⅰ」「情報サービス演習Ⅱ」に進む
-------	--

※ポリシーとの関連性

司書資格取得のための必修科目、情報資源組織論Ⅰでの資料分類法の知識を実践的な演習を通してさらに深めていきます。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報資源組織演習Ⅰ	前期	水6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-野里 純	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「情報資源組織論Ⅰ」（分類）の講義内容に基づき、日本十進分類法を用いて分類法の演習を行い、図書館の整理業務・資料組織化業務について、より実践的なスキルの習得を目指していきます。※「資料組織概説Ⅰ」「情報資源組織論Ⅰ」の単位取得者のみ受講できる科目です。	資料の分類は、図書館業務の基礎中の基礎です。しかし、その文脈をつかむまでは少々難しく感じるかも知れません。じっくりと取り組んでいきましょう。
到達目標	①資料の主題を特定するための分析ができます。 ②日本十進分類法を使いこなすことができます。 ③それらをふまえて、資料に対し適切な分類記号を与えられます。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバスを読み、授業に備える
	2	主題のつかみ方・分析方法（1）	NDC本表編11～14頁を読んでおく
	3	主題のつかみ方・分析方法（2）	宿題：主題分析の演習
	4	日本十進分類法（NDC）の構成	宿題：分類記号付与の演習
	5	補助表の使い方（1）形式区分	宿題：補助表を使う演習
	6	補助表の使い方（2）地理区分・海洋区分・言語区分	宿題：補助表を使う演習
	7	分類記号付与の実際（1）分類作業	事例紹介をもとに考察
8	分類記号付与の実際（2）分類規程	宿題：分類規程の演習	
9	演習問題（1類・2類）	宿題：類別の演習	
10	演習問題（3類）	宿題：類別の演習	
11	演習問題（4類・5類・6類）	宿題：類別の演習	
12	演習問題（7類・0類）	宿題：類別の演習	
13	演習問題（8類・9類）、固有補助表	宿題：類別の演習	
14	総合演習問題	宿題：総合的な演習	
15	総合演習問題	復習	
16	テスト	解答例・解説をもとに振り返る	
テキスト・参考文献・資料など	講師がレジュメを準備します。		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> 履修ガイド、新年度の司書課程オリエンテーションで説明している履修の順序をしっかりと確認した上で授業登録を行うこと。 「情報資源組織論Ⅰ」の単位を修得した者が履修できます。 出席日数が3分の2に満たない者には単位を与えません。 ※詳細は1回目の授業で説明します。		
評価	<ul style="list-style-type: none"> 試験 80点 平常点 20点（授業時間中の課題・宿題の提出状況で評価） ※詳細は1回目の授業で説明します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 <ul style="list-style-type: none"> この科目が資料整理業務（分類）について学ぶ最終科目です。分類の知識は図書館のあらゆるサービスの基礎となりますので、授業終了後も日々の図書館利用の中でこの授業で学んだ知識を活用するように心がけ、知識の定着に務めましょう。
-------	---

※ポリシーとの関連性

司書資格取得のための必修科目、情報資源組織論Ⅰでの資料分類法の知識を実践的な演習を通してさらに深めていきます。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報資源組織演習Ⅰ	後期	水6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-野里 純	2年	メールで随時受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「情報資源組織論Ⅰ」（分類）の講義内容に基づき、日本十進分類法を用いて分類法の演習を行い、図書館の整理業務・資料組織化業務について、より実践的なスキルの習得を目指していきます。※「資料組織概説Ⅰ」「情報資源組織論Ⅰ」の単位取得者のみ受講できる科目です。	資料の分類は、図書館業務の基礎中の基礎です。しかし、その文脈をつかむまでは少々難しく感じるかも知れません。じっくりと取り組んでいきましょう。
到達目標	①資料の主題を特定するための分析ができます。 ②日本十進分類法を使いこなすことができます。 ③それらをふまえて、資料に対し適切な分類記号を与えられます。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバスを読み、授業に備える
	2	主題のつかみ方・分析方法（1）	NDC本表編11～14頁を読んでおく
	3	主題のつかみ方・分析方法（2）	宿題：主題分析の演習
	4	日本十進分類法（NDC）の構成	宿題：分類記号付与の演習
	5	一般補助表の使い方（1）形式区分	宿題：補助表を使う演習
	6	一般補助表の使い方（2）地理区分・海洋区分・言語区分	宿題：補助表を使う演習
	7	分類記号付与の実際（1）分類作業	事例紹介をもとに考察
8	分類記号付与の実際（2）分類規程	宿題：分類規程の演習	
9	演習問題（1類、2類）	宿題：類別の演習	
10	演習問題（3類）	宿題：類別の演習	
11	演習問題（4類・5類・6類）	宿題：類別の演習	
12	演習問題（7類・0類）	宿題：類別の演習	
13	演習問題（8類・9類）、固有補助表	宿題：類別の演習	
14	総合演習問題	宿題：総合的な演習	
15	総合演習問題	復習	
16	テスト	解答例・解説をもとに振り返る	
テキスト・参考文献・資料など	講師がレジュメを準備します。		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> 履修ガイド、新年度の司書課程オリエンテーションで説明している履修の順序をしっかりと確認した上で授業登録を行うこと。 「情報資源組織論Ⅰ」の単位を修得した者が履修できます。 出席日数が3分の2に満たない者には単位を与えません。 ※詳細は1回目の授業で説明します。		
評価	<ul style="list-style-type: none"> 試験 80点 平常点 20点（授業時間中の課題・宿題の提出状況で評価） ※詳細は1回目の授業で説明します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 <ul style="list-style-type: none"> この科目が資料整理業務（分類）について学ぶ最終科目です。分類の知識は図書館のあらゆるサービスの基礎となりますので、授業終了後も日々の図書館利用の中でこの授業で学んだ知識を活用するように心がけ、知識の定着に務めましょう。
-------	--

※ポリシーとの関連性 司書資格取得のための必修科目です。

[/演習]

科目基本情報	科目名 情報資源組織演習Ⅱ	期別 後期	曜日・時限 火5	単位 2
	担当者 山口 真也	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ	
			授業開始前、または終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本授業では、「日本目録規則」に従って、図書、録音資料、映像資料、継続資料(逐次刊行物)等を取り上げ、その目録作成の方法を詳しく学習する。また、書誌を目録として完成させるために、標目と所在記号の作成方法を理解する。多様なメディアの目録作成技能を習得することが本授業の目的である。目録規則の新しい展開についても学ぶ。	メッセージ 司書資格科目には履修の順序があります。この科目は「情報資源組織論II」を受講し、単位を取得した人が受講できます。
	到達目標 1 図書、逐次刊行物、録音資料、映像資料などの定義を理解し、各種の資料種別の境界線を正しく認識することができる。 2 複雑な書誌階層を持つ資料について、書誌単位を正しく特定し、多様なメディアの書誌を正しく記述することができる。 3 書誌、所在、標目の3つを組み合わせて、精度の高い目録を作成できる。 4 コンピュータ目録に対応する新たな目録規則の展開を知り、今後の課題をとらえることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・「情報資源概論」の振り返り(テスト問題の解説)	情報資源組織論Ⅱの振り返り
	2	図書の書誌の作り方(復習)・解説編 →ミニレポート	練習問題を解く
	3	図書の書誌の作り方(復習)・演習編	練習問題を解く
	4	録音資料の書誌の作り方・解説編 →ミニレポート	練習問題を解く
	5	録音資料の書誌の作り方・演習編	練習問題を解く
	6	映像資料の書誌の作り方・解説編 →ミニレポート	練習問題を解く
	7	映像資料の書誌の作り方・演習編	練習問題を解く
	8	継続資料・逐次刊行物の書誌の作り方・解説編 →ミニレポート	練習問題を解く
	9	継続資料・逐次刊行物の書誌の作り方・演習編	練習問題を解く
	10	期末レポートの作成方法の説明・レポート作成演習	期末レポート作成
	11	標目の作成方法(1):タイトル標目の作り方	練習問題を解く
	12	標目の作成方法(2):著者標目の作り方	練習問題を解く
	13	標目の作成方法(3):件名標目の作り方・件名標目表の使い方	練習問題を解く
	14	目録の完成:書誌情報と標目・所在情報を組み合わせた総合演習問題の解説	期末レポート作成
15	目録規則の新しい展開(RAD・FRBR、2018年版)・授業のまとめ(到達度確認)、レポート提出	授業の振り返り	
16			
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しません。以下を参考文献とします。 『日本目録規則』(1987年版改訂3版), 日本図書館協会, 2006 『日本目録規則』(2018年版), 日本図書館協会, 2018 『基本件名標目表』(第4版), 日本図書館協会, 1999		
	学びの手立て ・「情報資源組織論II」の単位を習得した人が履修できます。 ・10回目以降は図書館所蔵資料『基本権名表目標』を使用します。		
	評価 ミニレポート(40点)...前半の授業の理解度を確認するためのミニレポートの到達度で評価。 期末レポート(30点)...図書、録音資料、映像資料、逐次刊行物のいずれかの目録を、書誌・所在・標目を取り入れた形で完成させる課題の到達度で評価。 平常点(30点)...前半の演習編、標目解説パートでは授業時間中に練習問題の回答を発表してもらう。発表の機会を多く与えるため、その回数を授業参加態度として加点し、評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 この科目で司書資格科目を全て取り終える人も多いようです。 司書を目指す人は、採用試験(公務員試験)に向けての勉強を本格的に始めましょう。
-------	--

※ポリシーとの関連性 司書資格取得のための必修科目です。

[/演習]

科目基本情報	科目名 情報資源組織演習Ⅱ	期別	曜日・時限	単位
	担当者 山口 真也	前期	火 3	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	授業開始前、または終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本授業では、「日本目録規則」に従って、図書、録音資料、映像資料、継続資料(逐次刊行物)等を取り上げ、その目録作成の方法を詳しく学習する。また、書誌を目録として完成させるために、標目と所在記号の作成方法を理解する。多様なメディアの目録作成技能を習得することが本授業の目的である。目録規則の新しい展開についても学ぶ。	メッセージ 司書資格科目には履修の順序があります。この科目は「情報資源組織論II」を受講し、単位を取得した人が受講できます。
	到達目標 1 図書、逐次刊行物、録音資料、映像資料などの定義を理解し、各種の資料種別の境界線を正しく認識することができる。 2 複雑な書誌階層を持つ資料について、書誌単位を正しく特定し、多様なメディアの書誌を正しく記述することができる。 3 書誌、所在、標目の3つを組み合わせて、精度の高い目録を作成できる。 4 コンピュータ目録に対応する新たな目録規則の展開を知り、今後の課題をとらえることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特)ガイダンス・「情報資源概論」の振り返り(テスト問題の解説)	情報資源組織論Ⅱの振り返り
	2	(特)図書の書誌の作り方(復習)・解説編 →ミニレポート	練習問題を解く
	3	(特)図書の書誌の作り方(復習)・演習編	練習問題を解く
	4	(特)録音資料の書誌の作り方・解説編 →ミニレポート	練習問題を解く
	5	(特)録音資料の書誌の作り方・演習編	練習問題を解く
	6	(特)映像資料の書誌の作り方・解説編 →ミニレポート	練習問題を解く
	7	(特)映像資料の書誌の作り方・演習編	練習問題を解く
	8	(特)継続資料・逐次刊行物の書誌の作り方・解説編 →ミニレポート	練習問題を解く
	9	(特)継続資料・逐次刊行物の書誌の作り方・演習編	練習問題を解く
	10	(特)期末レポートの作成方法の説明・レポート作成演習	期末レポート作成
	11	(特)標目の作成方法(1):タイトル標目の作り方	練習問題を解く
	12	(特)標目の作成方法(2):著者標目の作り方	練習問題を解く
	13	(特)標目の作成方法(3):件名標目の作り方・件名標目表の使い方	練習問題を解く
	14	(特)目録の完成:書誌情報と標目・所在情報を組み合わせた総合演習問題の解説	期末レポート作成
15	(特)目録規則の新しい展開(RAD・FRBR、2018年版)・授業のまとめ(到達度確認)、レポート提出	授業の振り返り	
16			
	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しません。以下を参考文献とします。 『日本目録規則』(1987年版改訂3版), 日本図書館協会, 2006 『日本目録規則』(2018年版), 日本図書館協会, 2018 『基本件名標目表』(第4版), 日本図書館協会, 1999		
	学びの手立て ・「情報資源組織論II」の単位を習得した人が履修できます。 ・10回目以降は図書館所蔵資料『基本権名表目録』を使用します。		
	評価 ミニレポート(40点)...前半の授業の理解度を確認するためのミニレポートの到達度で評価。 期末レポート(30点)...図書、録音資料、映像資料、逐次刊行物のいずれかの目録を、書誌・所在・標目を取り入れた形で完成させる課題の到達度で評価。 平常点(30点)...前半の演習編、標目解説パートでは授業時間中に練習問題の回答を発表してもらう。発表の機会を多く与えるため、その回数を授業参加態度として加点し、評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 この科目で司書資格科目を全て取り終える人も多いようです。 司書を目指す人は、採用試験(公務員試験)に向けての勉強を本格的に始めましょう。
-------	--

※ポリシーとの関連性

司書資格取得のための必修科目です。図書館情報資源概論で学んだ資料整理業務の知識をさらに深めていきます。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報資源組織論Ⅰ	前期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-望月 道浩	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	現在の図書館はそのサービス対象を従来の紙媒体中心から多種多様なメディアへと範囲が広がっており、それぞれのメディアの特性に合わせた組織化が求められている。本科目では、情報資源組織の意義や目的、分類法を中心としたシステムや理論を概説し、「日本十進分類法(NDC)」や「基本件名標目表(BSH)」の概要を学修することをねらいとする。	図書館利用者からは目に見えにくい「間接サービス」提供のため、資料や情報の検索・探索・取得のための基盤となる、理念や方法、ルールについて学びます。その歴史的成立過程や組織化のための各種規程をしっかりと学修し、「情報資源組織演習Ⅰ」科目へつながるよう毎回の学修に専念してください。
到達目標	1) 毎時間の学習内容について、要点(又は自身が抱いた疑問点、興味・関心)を整理し説明することができる。 2) 情報資源組織の意義と理論について説明することができる。 3) 情報資源組織化にかかわる分類について、各種規程を踏まえた分類作業や件名作業の基礎を理解し、分類記号付与のプロセスを説明することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	情報資源組織化の意義と理論	シラバス確認、UNIT0確認
	2	分類について：分類のはじまり、生物分類、リンネの分類、学問の分類	UNIT45確認
	3	主題と情報資源組織法	UNIT1、UNIT42確認
	4	図書館の分類について：分類と区分、区分原理、分類の原則	UNIT45-46確認
	5	さまざまな分類法：ゲスナー、フレンチシステム、デュイ、カッター、コロソなど	UNIT48確認
	6	NDCとは？(1)：分類体系、記号法	UNIT43確認
	7	NDCとは？(2)：補助表	参考文献②確認
	8	分類作業を知る(1)：主題情報、分類作業と分類表、分類と図書記号	UNIT42確認
	9	分類作業を知る(2)：NDCの適用、主題分析のポイント	UNIT42-43、49確認
	10	分類規程について：分類規程の種類・必要性、資料・分類表に関する規程	参考文献②確認
	11	件名標目について：件名(言葉)と記号、分類目録と件名目録、件名目録と主題検索	参考文献③確認
	12	BSHと国立国会図書館件名標目表(NDLSH)	UNIT50(O)確認
	13	一般件名規程、特殊件名規程	UNIT50確認
	14	分類作業と件名作業の総復習	これまでの配布資料を復習
15	情報資源組織論の将来展望	配布プリント確認	
16	試験	試験の振り返り	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>【テキスト】 指定しません。適宜資料を配付します。</p> <p>【参考文献】※「時間外学習の内容」に記載したUNITは、①の文献に対応しています。</p> <p>①『情報資源組織論』(新訂版)(JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ)柴田正美著、2016年、1,900円。</p> <p>②『日本十進分類法』(新訂10版)もり・きよし原編、日本図書館協会、2014年。</p> <p>③『基本件名標目表』(第4版)日本図書館協会件名標目委員会編、日本図書館協会、1999年。</p>

学びの実践	学びの手立て
	<p>1) 4月に開催される「司書課程オリエンテーション」に必ず参加し、司書資格科目の取得方法、履修の順序などを確認した上で履修してください。</p> <p>2) 講義後半以降、「分類作業」の講義内容にかかわり、図書館4階学習室で授業を行う場合があります。別途講義内でも連絡します。</p> <p>3) 演習課題に取り組むことが多々ありますので、積み残しの無いよう学修してください。</p>

学びの実践	評価
	<p>1. 当日レポートへの記述 30% (到達目標1・2・3の評価)</p> <p>(1) 授業内容に関するリアクションペーパー 15% (2) 演習問題 15%</p> <p>2. 最終レポート試験 70% (到達目標2及び3の評価)</p> <p>(1) 情報資源組織の意義と理論に関する事項 20% (2) 分類作業に関する事項 30%</p> <p>(3) 件名作業に関する事項 20%</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>本科目の単位を修得しなければ、「情報資源組織演習Ⅰ」を履修することはできません。本科目で学んだ各種規程を踏まえつつ、「情報資源組織演習Ⅰ」科目での演習を通して、分類作業についてさらに理解と学修を深めていきます。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報資源組織論Ⅱ	前期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山口 真也	2年	授業開始前、または終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本授業のテーマである「情報資源組織」とは図書館利用者が必要とする情報を迅速、かつ適確に提供するための技術を意味します。この授業では、組織技術の1つである「目録」を取り上げ、その意義や理論、作成方法について、「日本目録規則」を中心に学習し、コンピュータ目録をはじめとする各種目録の構成と管理・運用方法、世界的な書誌の標準化の問題なども取り上げます。</p>	<p>司書資格科目には履修の順序があります。この科目は「図書館情報資源概論」と同時に受講するか、単位取得後に受講するようにしましょう。</p>
到達目標	<p>①目録メディアには様々な種類があることを理解し、その歴史的展開を説明できる。 ②目録の3つの構成要素(書誌・所在・標目)について、現代のコンピュータ目録の機能・必要性もふまえて説明できる。 ③「日本目録規則」に基づく図書書誌作成方法、特に書誌階層と書誌単位の考え方を正しく理解し、専門職として求められる目録管理・作成方法の基本的技術を身につけることができる。 ④授業で学んだ知識をもとに、OPACのデータを正しく読み取り、大学でのレポートや発表のための文献調査に役立てることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・目録とはなにか?1 資料組織化の意義と必要性	練習問題:目録と書誌を分ける
	2	目録とはなにか?2 目録の歴史と種類(メディアの発展、冊子、カード、コンピュータ目録)	授業の復習・予習
	3	目録法の歴史1 英米目録規則と日本目録規則の関係	授業の復習・予習
	4	目録法の歴史2 日本目録規則の展開・書誌コントロール	授業の復習・予習
	5	日本目録規則の理論1 書誌単位と物理単位の区別	練習問題:書誌単位の決定
	6	日本目録規則の理論2 書誌階層の考え方	練習問題:書誌階層の区別
	7	日本目録規則の理論3 書誌階層と書誌単位の関係	練習問題:複雑な書誌階層の区別
	8	日本目録規則の理論4 資料種別・非図書資料の重視・記述の精粗	練習問題:資料種別の区別
	9	日本目録規則に基づく書誌作成方法1 書誌的事項の記録・優先順位・タイトル	練習問題:タイトルの記述
	10	日本目録規則に基づく書誌作成方法2 責任表示・版表示	練習問題:責任表示・版表示の記述
	11	日本目録規則に基づく書誌作成方法3 出版事項・形態事項	練習問題:出版事項他の記述
	12	日本目録規則に基づく書誌作成方法4 シリーズ・注記・標準番号	練習問題:シリーズ他の記述
	13	日本目録規則に基づく書誌作成方法5 目録の完成(カード目録作成方法)	総合練習問題に取り組む
	14	総合練習問題の解説	授業の復習・予習
15	日本目録規則の新しい展開(RDA・FRBR、2018年版の特徴) 授業評価アンケート	テスト勉強	
16	試験・試験の解説	テスト問題の振り返り	

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは使用しません。以下は参考文献です。 『日本目録規則』(1987年版改訂3版), 日本図書館協会, 2006 『日本目録規則』(2018年版), 日本図書館協会, 2018</p>
-------	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> 今年度から司書課程の受講を始める人は、履修ガイド、または新年度に行っている図書館司書課程オリエンテーションにて、履修の順序を確認しましょう。 毎回の復習をしっかりと行い、積極的に質問し、次回に疑問を残さないようにしましょう。
--------	---

評価	<p>定期テスト・・・100点(期末試験の到達度により評価) (※自由提出レポートの点数をテストの点数に追加して評価することもある)</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本科目の単位取得後は、後継の演習科目となる「情報資源組織演習Ⅱ」を早めに受講しましょう。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	図書館施設論	前期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉田 肇吾	3年	yoshida@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>公共図書館という社会施設では、利用者だけでなく職員にも使い勝手の良いスペースを創り出す必要がある。そのためどのようなプロセスで建物と館内スペースを構築していくのか。基本的な考え方もとともに建設提案から開館までのプロセスを辿ることで概観し、インテリアデザインなどにも触れながら理解する。</p>	<p>2021(令和3)年度は「遠隔授業」とします。 授業方法は①毎週、関係資料・レポート課題の提示→②レポート提出→③平常点(毎週のレポート評価)→④最終試験の総合評価とする。 地域社会の中での役割、どのような考え方による施設の造り方、利用者が利用しやすく、職員も仕事しやすい館内施設・設備を整えるには、どのような工夫が必要なのかについて考察する。</p>
到達目標	図書館利用者により利用しやすい館内環境を提供するための、視点と考え方を習得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) 図書館建築について	第1～15週：関連文献による内容把握だけでなく、インターネットで各図書館の施設・設備に関する画像情報も調査しておくこと
	2	(特) 図書館建設の変化	
	3	(特) 図書館スペースと利用者	
	4	(特) 図書館スペース計画と展開	
	5	(特) 担当者と機能・役割	
	6	(特) 図書館スペース計画 1	
	7	(特) 図書館スペース計画 2	
8	(特) 設備・備品のレイアウト 1		
9	(特) 設備・備品のレイアウト 2		
10	(特) 図書館の照明、色彩とサイン		
11	(特) 図書館スペースと音響対策		
12	(特) 開館準備		
13	(特) 事例 1		
14	(特) 事例 2		
15	(特) 事例 3		
16	(特) 試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など 毎週、課題資料を配布する。		
	学びの手立て 関連文献や各図書館のWebサイトで、公共図書館内外の施設・設備に関する画像情報をチェックしておく。		
	評価 毎週の「課題レポート」(50%)、及び「中間課題」(20%)、「期末レポート」(30%)による総合的評価とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 図書館司書課程科目
-------	--------------------------

※ポリシーとの関連性 司書資格取得のための必修科目です。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名 図書館情報技術論	期別 後期	曜日・時限 土2	単位 2
	担当者 -伊佐 常利(11回) -大谷 周平(4回)	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ	
			授業終了後に受け付けます	

学びの準備	ねらい 図書館業務に必要な基本的な情報通信技術(ICT)を修得することを目的とし、コンピュータの基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料等について解説し、図書館システムを理解するために、データベースの構築演習を行う。さらに、ICTを現実の図書館サービスに導入する上で見えてくる新しい時代の図書館サービスの在り方・課題について考えていく。	メッセージ 司書課程にはPC操作が苦手な学生も多いようですが、これからの図書館サービスにICTは必須です。この科目の履修を通して、司書としての適性を考えることも大切です。頑張りましょう。
	到達目標 以下のスキルを身に付ける。 ①コンピュータの基礎知識 ②図書館サービスを支えるICT、③デジタルアーカイブ構築に必要なサーバー・クライアント知識、④インターネット検索の仕組み・問題点、⑤発信型サービスに必要な情報技術、⑥ネットワークセキュリティ知識、⑦ネットワーク上での個人情報の利用状況と問題意識、⑧フィルタリングの知識、⑨簡単な業務システム構築方法、⑩ICTを図書館サービスに導入する上で問題点・課題を考える力	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・情報技術と社会、図書館との関わり1	シラバスを読んで授業に備える
	2	コンピュータの基本知識	コンピュータの基本を再確認する
	3	ネットワークの基本知識1 インターネットの歴史・仕組み	ネットワークへの理解を深める
	4	ネットワークの基本知識2 サーバーとクライアント	サーバーへの理解を深める
	5	検索エンジンの仕組み	検索エンジンの特徴を理解する
	6	情報発信型サービス・情報発信技術	図書館における情報発信を考える
	7	ネットワークセキュリティ	セキュリティに関わる記事を読む
	8	ネットワークとフィルタリング	フィルタリングサービスを使う
	9	データベースの仕組み1 (簡易データベースシステムの構築) Excel	課題作成の為のデータ収集
	10	データベースの仕組み2 (簡易データベースシステムの構築) Excel	課題作成の為のデータ収集
	11	データベースの仕組み3 SQL	課題の作成
	12	データベースの仕組み4 SQL	課題の作成
	13	情報技術と社会、図書館との関わり2	最終レポートの為の文献収集
	14	情報技術と司書の役割1	最終レポートの為の文献収集
	15	情報技術と司書の役割2 授業のまとめ	最終レポートの作成
16			

テキスト・参考文献・資料など
プリントを配布する。
2GB以上を保存できるUSBフラッシュメモリを各自で準備すること。

学びの手立て
・プリントは毎回持参すること。
・データを保存できるUSBメモリを毎回用意すること。

評価
レポート点…100点(伊佐担当分70点、大谷担当分30点、※両方の課題を提出しなければ単位は認めない)

学びの継続
次のステージ・関連科目
ICTはこれからの司書として必須のスキルです。各学科で開講されているパソコン関係の科目、共通科目等も積極的に受講し、さらにスキルを高めていきましょう。日本文化学科の学生は、学科専門科目として開講されている上級情報処理士関係科目を受講してみるのもよいでしょう。

※ポリシーとの関連性 司書資格取得のための選択科目です。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	図書館情報資源特論	前期	土1	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-堀川 輝之	3年	授業後に教室で、もしくは電子メールで受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>図書館には様々な種類があり、資料・情報資源も種々多様である。図書館があつかう情報資源の中から「専門的資料」に注目し、専門図書館等で取り扱う郷土資料や地域行政資料・公文書など各種資料の特質についての理解や知識を深めることを目的とする。主に地域社会に特化した情報資源に焦点を当てて、種類と特色を理解し、沖縄の歴史・文化を伝える情報資源の活用法を実践的に学習する。</p>	<p>公文書館や市史編纂における実務経験を踏まえて、現実的な側面から業務及び必要な知識について説明します。また、理念的な側面から「公的機関による情報サービスの理想」についての検討も行います。それらに歴史的な視点を加えて議論します。履修者は、講義と自学自習を通して知識を得るばかりでなく、経験論、演繹論、そして歴史的な観点を行き来しつつ、複眼的な思考を訓練します。</p>
到達目標	<p>①図書館とその類縁機関の機能、役割の違いを体系的に理解する。 ②①の理解をふまえて、類縁機関で取り扱う専門的資料の種類と沖縄独自の歴史・文化、政治状況をふまえたその活用方法を考えることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・沖縄の歴史から見えてくる専門知識の必要性①	評価レポート用のテーマを選択する
	2	沖縄の歴史から見えてくる専門知識の必要性②	同上
	3	沖縄関係資料の種類と所在	同上
	4	デジタル・アーカイブズの機能と可能性①	同上
	5	デジタル・アーカイブズの機能と可能性②	同上
	6	図書館類縁機関の専門資料①(行政資料・公文書とはなにか?)	同上
	7	図書館類縁機関の専門資料②(行政情報センターの働きと知る権利)	同上
	8	図書館類縁機関の専門資料③(行政資料と知る権利)	同上
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

テキスト・参考文献・資料など
 パワーポイントを使って講義を行います(テキストは使用しません)。希望者にはパワーポイント資料をメール添付で送付します。

学びの手立て

- ・「図書館情報資源概論」(または「図書館資料論」)の単位を修得した者が履修できる。
- ・新年度に行っている図書館司書課程オリエンテーションにて、履修の順序を確認した上で履修してください。
- ・講義スケジュールは1回目の授業で説明(確定)します。必ず参加してください。

評価

レポート・・・100点
 3回以上欠席した場合はレポートを提出する資格を与えない。

次のステージ・関連科目

図書館情報資源について学ぶ科目はこの科目が最後です。卒業研究等でこの授業で学んだ専門的資料知識を生かしてください。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	図書館制度・経営論	後期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉田 肇吾	2年	yoshida@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	公共図書館に関連する法体系とその内容及び、各図書館の設置主体である地方自治体の図書館政策や管理・運営についての考え方や方法論を理解する。	2021(令和3)年度は「遠隔授業」とします。 授業方法は①毎週、関係資料・レポート課題の提示→②レポート提出→③平常点(毎週のレポート評価)→④最終試験の総合評価とする。 図書館経営に関する知識は、司書も設置主体の自治体との関係や地域住民、図書館が直面する問題に対する考え方や問題解決プロセス、意思決定について把握しておく必要がある
到達目標	行政との関係の中で問題の考え方や課題の処理方法などについて、日常業務を越えた大きな視点で、地域社会の中の公共図書館を捉えられる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特)オリエンテーション：科目内容の説明、登録状況の確認	第1週：シラバスを読み授業に備える
2	(特)図書館関係の法体系	第2～15週：関連文献による内容把握だけでなく、国内のいろいろな地域で取り上げられている公共図書館の運営方法についての記事にも注目しておくこと	
3	(特)図書館に関する法律 1		
4	(特)図書館に関する法律 2		
5	(特)図書館法の内容		
6	(特)図書館サービス関連法規		
7	(特)図書館政策 1		
8	(特)図書館政策 2		
9	(特)公共施設経営の考え方や方法論		
10	(特)図書館の組織と職員 1		
11	(特)図書館の組織と職員 2		
12	(特)図書館の施設・設備		
13	(特)図書館サービスの計画立案		
14	(特)図書館サービスの評価		
15	(特)図書館運営の現状と課題		
16	(特)試験		
	テキスト・参考文献・資料など 毎週、課題資料を配布する。		
	学びの手立て 図書館の具体的な業務内容だけでなく、地域社会の中で設置主体である地方自治体との関係にも目を向け、図書館全体を大きく捉える視野を持つこと。		
	評価 毎週の「課題レポート」(50%)、及び「中間課題」(20%)、「期末レポート」(30%)による総合的評価とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 図書館関係の「ゼミナールⅠ・Ⅱ」
-------	---------------------------------